

平成30年度大学院入学式

本日より、日本体育大学大学院において、さらなる学問の追究を目指し、それぞれの専門分野で、新たな第一歩を踏み出す、皆さん、ご入学おめでとうございます。また、これまで皆さんを支えてこられた、ご家族の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

今年度は、体育科学研究科体育科学専攻と教育学研究科実践教科教育学専攻のそれぞれ博士前期・後期課程に加え、新たに、保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程と、体育科学研究科にコーチング学専攻博士前期・後期課程を開設したことにより、こうして86名におよぶ入学生を迎え、大学院入学式が挙げてできますことを大変嬉しく思います。

保健医療学研究科は、保健医療学部を基礎として設置され、「高度実践柔道整復師コース」「救急災害医療学コース」ともに、科学的根拠に基づく高度の技量を有する臨床現場の指導者、医療従事者及び柔道整復師、救急救命士養成施設等の教員養成に主眼を置いています。

一方、体育科学研究科コーチング学専攻は、本学が、2015年度から2020年度までの7年間、スポーツ庁より委託を受けている、「スポーツ・アカデミー形成支援事業」（国際スポーツ人材育成拠点の構築）の一環として開講する、「コーチディベロッパー・アカデミー」の理念を発展的に継承するかたちで設置されたものです。この事業は、国際的な「コーチ育成者」の養成と、そのコーチ育成者の世界的ネットワークの構築と、新たなコーチング文化の創造を目指すもので、本学の強みでもある「競技力」を軸にして、より実践的で高度な研究の展開が求められています。

本学のミッションの最初に、『体育スポーツ学、教育学、保健医療学分野における先駆的・実践的研究を推進し、人間の「活力ある身体」について、その真理を探究する。』ことが掲げられています。

あわせて、「真摯な基礎研究と課題解決に向けた実践的研究を高い水準で展開し、各専門分野の連携を図りながら、学際的研究に取り組むとともに、その成果を広く社会に発信する。とりわけ、体育・身体活動・スポーツの実践から生じる諸問題について、人文科学・社会科学・自然科学の諸分野から総合的に分析・検討を加え、得られた新たな知見や解決方法を実践現場に還元する双方向的研究活動を推進する。」と研究分野におけるビジョンが明示されています。

これらは、いずれも、大学院がその中核的・先導的役割を担い、かかる分野で世界をリードしていくことを期待するものです。

各研究科・専攻をそれぞれ眺め返してみると、そこには、いずれも、現場での「実践」に基づき、それを意識した「理論」の修得が強く求められていることがわかります。そして、新たに得られた知見を、再びスポーツや教育、医療の現場に有効に活かしていこうとする、双方向、「実践と理論の一体化」の試みこそが、その研究活動の中心であることも再認識できます。

皆さんには、ぜひ、こうした本学の社会的使命と研究目標、さらには大学院が果たすべき役割を理解して戴き、その担い手として、それぞれの研究領域・分野で、研究者としての生活を歩み出し、真摯に研鑽を積み重ねていって欲しいと強く願います。

本日は、本当におめでとうございます。皆さんのこれからの大いに期待しています。

平成30年4月3日

日本体育大学

学長 具志堅 幸司